令和4年度 総括評価表

（評定）A：十分達成できた，　B：概ね達成できた，　C：達成できなかった　徳島県立城ノ内中等教育学校(後期課程)・高等学校

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評　　価　＊（　　）は昨年度との比較で，増減ﾎﾟｲﾝﾄを表す		学校関係者の意見	
リーディングハイスクール事業の推進① 中高一貫教育の推進	（全校レベル） 中高一貫教育校のﾒﾘｯﾄを最大限に活かし，本校の活性化に役立てる。 （下位組織レベル） 前期生と後期・高校生の良好な関係構築。 前期，後期・高校教職員の緊密な連携による組織の活性化。 前期，後期・高校が連携したPTA活動の充実。	評価指標 ○「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒・保護者が90%以上。 ○「前期生と後期・高校生の関係は良好である」と答えた生徒が70%以上。 ○「前期，後期・高校が連携したPTA活動は活発である」と答えた保護者が70%以上。 活動計画 ①前期，後期・高校職員合同の会議を年25回以上，PTA役員会を年4回以上開催する。 ②前期，後期・高校合同の行事・作業・部活動・交流を行う機会を積極的に設定する。 ③中等教育学校への完全移行に向けた準備を進め，体制を整える。	評価指標による達成度 ○「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒90%(−1p)・保護者91%(−1p)。 ○「前期生と高校生の関係は良好である」と答えた生徒73%(+4p)。 ○「前期，後期・高校が連携したPTA活動は活発である」と答えた保護者が71%(+5p)。 活動計画の実施状況 ①前期，後期・高校職員合同の会議を31回（運営委員会12回，中等教育学校移行全体会2回，人権教育研修会・ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ研修会など職員会議17回），合同のPTA役員会を4回開催し，共通理解を図った。 ②コロナ禍ではあったが，開催方法を工夫して，学校祭，予餞会，防災訓練，人権映画会，総合学習発表会などを前期，後期・高校合同で実施するとともに，音楽部やフェンシング部，弓道部などの多くの部で合同練習を行った。 ③教科会と分掌の課会を各2回，全体会を2回開催し，「中等教育学校推進に向けた準備計画」の本年度まとめを完成させた。	総合評価 （評定） **A** （所見） 今年度もコロナ禍の影響を受け，PTA関係の行事に関しては，文化祭の公開中止を始め，制限をお願いせざるを得なかった。ただし，教育活動全般においては，その都度開催方法等を工夫するなどして，可能な限り実施した。そのため，学校生活や教育活動全般に対する満足度については，生徒・保護者ともに評価指標を上回った。 前期生と後期・高校生の良好な関係の構築に関しては，評価指標を上回り，生徒に関しては昨年度より4ポイント向上した。中等教育学校へのスムーズな移行がなされており，一体感が醸成されている。 いよいよ次年度の中等教育学校への完全移行に向け，最終準備を行ってきた。学校全体の活性化に繋げられるよう，協働体制の確立を図っている。	教育活動全般に満足しているという項目の数値が高く，また他の項目においても昨年度比でプラス回答になっており，素晴らしい結果である。 前期生に対して後期生が助言する試みなどは良いことであり，さらに進めてほしい。 コロナ禍で様々な行事等を実施できなかったことは，今後にも大変な影響を及ぼす。いろいろな行事の復活とともに，新たなものを企画し実施するつもりで学校運営をお願いしたい。	○前期課程・後期課程合同のPTA関係の行事等を，状況に応じて，可能な限り工夫して実施する。 ○前期課程と後期課程の全ての教職員が，同じ中等教育学校の教職員であるという意識を共有し，スクール･ミッション，スクール･ポリシーの実現に向けて，共通理解の下で緊密に連携を図るとともに，そのための組織づくりを進めていく。 ○中等教育学校の特性を生かし，後期生と前期生の有機的な結びつきを生み出し，安心感のあるより良い学校生活を実現に繋がる取組を模索し，積極的に実施する。
リーディングハイスクール事業の推進② 確かな学力と進路観の育成	（全校レベル） 授業の充実改善に積極的に取り組み，全生徒の進路希望実現を目指す。 （下位組織レベル） よりよい指導計画や指導方法の工夫・改善。 全ての教師集団の協力による組織的な進路指導体制の構築。 確かな進路観や職業観の育成。	評価指標 ○「教員は学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒・保護者・教職員が85%以上。 ○「教員はわかる授業を目指して授業を工夫している」と答えた教職員が95%以上。 ○「生徒の希望を尊重したきめ細かな進路指導ができている」答えた生徒・保護者が85%以上。 ○「教員は生徒の進路相談や悩みについてよく相談にのってくれる」と答えた生徒・保護者が85%以上。 活動計画 ①研究授業・授業研究会を前期，後期・高校合同で実施する。 ②授業評価を年2回実施する。 ③キャリア形成と進路に関する学年集会や講演会及び大学講師等による出張講義を実施する。 ④学習実態調査と進路希望調査を実施する。	評価指標による達成度 ○「教員は学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒93%(+1p)・保護者89%(+2p)・教職員95%(+1p)。 ○「教員はわかる授業を目指して授業を工夫している」と答えた教職員が98%(±0p)。 ○「生徒の希望を尊重したきめ細かな進路指導ができている」答えた生徒88%(−3p)・保護者85%(+2p)。 ○「教員は生徒の進路相談や悩みについてよく相談にのってくれる」と答えた生徒91%(−2p)・保護者85%(±0p)。 活動計画の実施状況 ①中高合同での研究授業・授業研究会を年13回実施した。 ②授業評価を年2回実施した。 ③計画的に学年集会や講演会等を実施した。 ・学年集会（4年5回，5年6回，6年6回） ・進路講演会（4年1回，5年1回，6年1回） ・未来を拓く講演会（2回），総合的な探究の時間での外部講師による講演会等（オンラインを含む），体験学習等 ④学習実態調査（4年5回，5年5回，6年4回）と，各学年とも年2回の進路希望調査を実施した。	総合評価 （評定） **A** （所見） すべての評価指標で概ね目標を達成することができた。 授業改善の評価としては概ね例年通りである。客観的に授業を振り返り，社会から求められている新しい学力観に対応した授業となるように，さらなる授業改善に取り組むとともに，生徒・保護者との意思疎通を深めることが求められる。 また，進路指導の関わるアンケート項目については昨年度に比べ生徒の肯定的な意見の割合が減少している。今後もより一層生徒の希望を尊重したきめ細やかな進路指導を心がけていく必要がある。 学年集会，進路講演会などは，概ね計画通り実施することができた。また，生徒の感想文などからも，内容については概ね好評であった。講演会の満足度は，講師の選定が最も大きな要素であると思われる。今後も情報収集に努め，各学年の要望に合致した講師を探すことが求められる。 授業評価・学習実態調査について回数は実施できているが，実施だけに留まらないよう，結果の検証や事後対応についての時間確保など，課題は残っている。	平均的に高評価であり，特に学力面での生徒・保護者の満足度がきわめて高くなっていることは，学校の懸命な取組をきちんと評価している結果と考えられる。 わかる授業を目指した授業の工夫については，引き続きICTの活用などについて検討していってほしい。	○新しい学習指導要領へ移行し，エージェンシーを育成するための主体的・対話的で深い学びやICTの活用等，新たに求められている指導法を用いての授業改善について，調査・研究を続ける。また，新入試についての調査・研究を継続する。 ○6学年を中心に大学入学共通テスト対策を行う。進路指導課だけではなく，各教科・各学年と協力して対応する。また，より良い進路指導体制を構築するために，職員会や資料提示を行うなど，教職員間での情報交換の機会を提供する。 ○小論文，面接等で個別指導を希望する生徒への対応法や，探究活動の充実をどのように図るかなど，直面する課題を検証し，限られた人員での持続可能な指導体制の構築を検討する。 ○中等教育学校への完全移行を受け，これまでの経験を生かしながら，本校が目指す中等教育学校像の実現に向けて，課題や改善点を引き続き検討していく。

令和4年度 総括評価表

（評定）A：十分達成できた，　B：概ね達成できた，　C：達成できなかった　徳島県立城ノ内中等教育学校(後期課程)・高等学校

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評　　価　＊（　　）は昨年度との比較で，増減ﾎﾟｲﾝﾄを表す		学校関係者の意見	
人権教育の推進	（全校レベル） すべての教育活動で人権教育の推進を図る。 （下位組織レベル） ホームルーム活動や学校行事の充実。	評価指標 ○「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒・保護者・教職員が85%以上。 ○「自分を大切に思う心が育っている」と答えた生徒が85%以上。 ○「生徒は他者を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 活動計画 ①人権学習ホームルーム活動の研究授業・研究協議，事前研修会を実施する。 ②人権問題意見発表会を実施する。 ③人権問題講演会を実施する。 ④職員研修を校内で年2回，校外で年1回実施する。	評価指標による達成度 ○「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒91%(+1p)・保護者88%(+2p)・教職員95%(+7p)。 ○「生徒は自分を大切に思う心が育っている」と答えた生徒89%(+2p)。 ○「生徒は他者を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒87%(+4p)・保護者89%(+3p)・教職員83%(+4p)。 活動計画の実施状況 ①各学年で研究授業・研究協議を実施するとともに，毎回，事前研修会を学年別に実施した。 ②4～6年生を対象に人権教育意見発表会を実施した。また，今年度から3年生も全員，4～6年生の発表を聴講した。 ③5年生対象に人権問題講演会を，また4年生対象に「WAKU WAKU 新生活セミナー」を実施した。 ④中高合同の教職員研修会を校内で年2回実施した。例年行っている校外での地域研修会は，インターハイの本県開催等の事情により日程調整ができず，実施できなかった。	総合評価 （評定） A （所見） すべての評価指標においてそれを上回っており，また生徒・保護者・教職員ともに前年度以上となっている。 コロナ禍において，生徒に対しては感染防止対策を講じながら十分な教育活動を展開できたが，保護者向けの啓発や教職員向けの研修についてはまだまだ十分な機会が確保できているとはいえない。 今後も，生徒の自己肯定感を育むことを土台に，他者を大切に思う心や態度の育成をはじめ，人権感覚の醸成について継続して取り組むとともに，オンライン等を活用し，保護者啓発や教職員研修の充実に努める必要がある。	「WAKU WAKU 新生活セミナー」で避難所運営ゲームを取り入れたことは非常に素晴らしい。防災を絡めて人権教育を行うことは良い視点である。あらゆる多様性を包摂する方向へ拡げてほしい。 評価が高いことはそれに見合った教育がなされているからであり，安心した。教育の成果で行動に変容をもたらしていることは素晴らしいことである。	○人権資料『じんけん』をさらに活用して，より生徒の実態に即した人権教育ホームルーム活動ができるよう，研究協議や事前研修会を充実させる。 ○定期的に実施している学校生活に関するアンケート調査等の結果を活用して生徒の悩みなどを把握し，迅速に対応できる体制を整え，いじめをはじめ人権問題の未然防止と早期発見・対応を実行する。 ○教科，特別活動等すべての教育活動の中で，生徒個々の課題や配慮事項等の気付きなどの情報を共有する。生徒の自己肯定感を育むことができるよう留意し，学年会，職員会を定期的に設定する。
基本的生活習慣の確立と道徳性の涵養	（全校レベル） 学校は家庭と連携し，生徒の基本的生活習慣の確立を図る。また，いじめを絶対許さない姿勢を示し，いじめの未然防止に努める。 （下位組織レベル） 挨拶が交わせる環境づくり。 服装頭髪指導の徹底。 交通ルール・マナーの遵守・向上に向けての取組推進。 いじめの積極的な認知と対応。	評価指標 ○生徒一人あたりの遅刻回数が，昨年度より減少している。 ○「生徒は挨拶をしている」と答えた生徒・教職員が70%以上。 ○「生徒は服装頭髪についての校則を守っている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 ○自転車安全カード（警告書）の交付数が，昨年度より減少している。 活動計画 ①遅刻者には「遅刻指導票」を提出させ，その都度指導する。 ②5のつく日には，朝のあいさつ運動を実施する。 ③服装頭髪検査を定期的に実施する。 ④毎月交通マナーアップ運動を実施する。 ⑤いじめ問題に関するアンケートを年3回実施する。	評価指標による達成度 ○「学校は家庭と連携し，生徒の基本的生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者80%(−2p)・教職員93%(+5p)。生徒一人あたりの遅刻回数は，昨年度1.1回に対して今年度1.5回であった（ともに2学期末時点）。 ○「生徒は挨拶をしている」と答えた生徒76%(+14p)・教職員70%(+18p)。 ○「生徒は服装頭髪についての校則を守っている」と答えた生徒77%(+3p)・保護者92%(−1p)・教職員76%(−9p)。 ○「生徒は交通ルールや交通マナーを守っている」と答えた生徒77%(+19p)・教職員85%(+14p)。自転車安全カードの交付数は，昨年度24件に対して今年度38件（ともに11月末時点）。 活動計画の実施状況 ①遅刻者は，まず「遅刻指導票」を教頭に提出することとし，その際に，教頭が聞き取り・指導を行った。その後，HR担任・教科担任により遅刻者の確認および指導を行った。 ②生活委員，生徒会役員などのより，校門前であいさつ運動を行った。 ③学期はじめなどに，学年やHR単位で実施した。 ④毎月の学校安全の日（20日）には，登校時に教職員による立ち番指導を実施した。 ⑤いじめ問題に関するアンケートを年3回実施した。必要に応じて担任による面談での聞き取りを実施し，教職員の共有理解の下で丁寧な対応を行った。	総合評価 （評定） B （所見） 「基本的生活習慣の確立や家庭との連携」については，保護者・教職員ともにアンケート結果も良好で，まずは落ち着いた学校生活を送ることができている。生徒一人あたりの遅刻回数はやや増加した。 「挨拶」については生徒・教職員とも評価指標を達成し，加えて生徒・教職員ともに昨年度から10ポイントを超える大きな向上が見られる。 「服装頭髪」についての校則が守られているかについては，生徒と保護者・教職員の間に若干差異はあるものの評価指標を達成した。 「いじめ防止」については，アンケートを定期的に実施し，早期発見・対応に努めた。しかし，アンケート結果に表れない場合もある。授業中や休み時間等の観察や教職員間での情報の共有など徹底し，継続的な取組が必要である。 「登下校時の安全，特に自転車通学」については，無灯火の事例などで警告書の交付数が増加した。事故の被害者・加害者にならないようにルールの厳守を指導していく。また，事故に遭遇した時に適切な対応がとれるよう，さらに指導を徹底する必要がある。	挨拶から1日が始まる運動が実施され，達成度においても昨年度から大幅にポイントアップしていることは素晴らしい。今後も続けてほしい。 教員が挨拶することを大切にしてほしい。	○5分前行動を心がけさせ，時間を厳守させる。多遅刻者には生活習慣の見直しなど家庭と連携して個別指導を行う。 ○挨拶は生活の基本的なコミュニケーションツールである。生活委員による「5のつく日の運動」や生徒会が自主的に実施してる挨拶運動を継続し，挨拶の大切さを周知するとともに，互いに挨拶が交わせる環境づくりを推進する。 ○服装頭髪指導については，集会時などの検査だけでなく，清潔感のある着こなしの必要性を理解させ日常的に心がけさせる。大きく逸脱したケースでは，保護者とも共通理解をはかり，家庭との連携を密にした指導を続ける。 ○いじめに関するアンケートの実施等を通して，積極的認知，早期発見，適切な対応に努める。 ○夜間のおける無灯火運転の厳禁など，交通ルールの厳守・交通マナーの向上の徹底に努める。

令和4年度 総括評価表

（評定）A：十分達成できた，　B：概ね達成できた，　C：達成できなかった　徳島県立城ノ内中等教育学校(後期課程)・高等学校

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評　　価　＊（　　）は昨年度との比較で，増減ﾎﾟｲﾝﾄを表す		学校関係者の意見	
本県の重要課題を見据えた教育の推進	（全校レベル） 防災教育を徹底するとともに，主権者教育と消費者教育の推進に努める。 （下位組織レベル） 防災意識の高揚と防災への取組の推進。 関連授業や特別活動を通して，主権者意識と消費者意識を高める教育の充実。 勤務の効率化の推進。	評価指標 ○「学校は防災意識の高揚に努めるとともに，防災への取組を推進している」と答えた生徒・保護者・教職員が85%以上。 ○防災クラブを組織し，積極的に防災活動に取り組む。（有志での参加者数が15人以上） ○「生徒は授業やホームルーム活動等を通して，政治や選挙への関心や政治的教養が高まった」と答えた生徒・教職員が60%以上。 ○「生徒は『エシカル消費』を意識し，マイボトル・バッグの使用や地産地消などの具体的な行動を心がけている」と答えた生徒が70%以上。 ○「教職員は時間外勤務の縮減を目指し，担当業務の精選など業務改善に取り組んでいる」と答えた教職員が60%以上。 活動計画 ①防災避難訓練（火災・地震・津波）等を年2回以上実施するとともに，防災クラブの活動の充実を図る。 ②学年集会等において，選挙や政治参加の意義について講話を行う。 ③授業や総合的な探究の時間等で「エシカル消費」に関する実践研究に取り組む。 ④勤務の効率化を促し，業務改善に取り組む。	評価指標による達成度 ○「学校は防災意識の高揚に努めるとともに，防災への取組を推進している」と答えた生徒87%(+2p)・保護者83%(−3p)・教職員92%(−6p)。 ○防災クラブとして，36名のクラブ員が積極的に防災活動に取り組んだ。 ○「生徒は授業やホームルーム活動等を通して，政治や選挙への関心や政治的教養が高まっている」と答えた生徒69%(+1p)・教職員81%(+13p)。 ○「生徒は『エシカル消費』を意識し，マイボトル・バッグの使用や地産地消などの具体的な行動を心がけている」と答えた生徒70%(+5p)。 ○「教職員は時間外勤務の縮減を目指し，担当業務の精選など業務改善に取り組んでいる」と答えた教職員51%(+8p)。 活動計画の実施状況 ①防災避難訓練（地震・津波）を7月と11月に実施した。11月月には青嵐認定こども園と地域の自主防災会の方々と連携した訓練を行った。 ②各学年において，主権者教育についての講話を実施した。また，5年生対象に徳島市選挙管理委員会職員を講師に迎え出前授業と模擬投票を行った。 ③総合的な探究の時間を中心に，4年生は全員がエシカル消費を推進するための研究に取り組んだ。5年生以降は，SDGsの視点からの研究を行った。コンクールへの参加や，地域活性を目指したイベントの企画・実践などを行った。 ④教職員の時間外勤務の縮減を目指し，業務への組織対応を推し進めるながら，可能な範囲での精選・改善に取り組んだ。	総合評価 （評定） **B** （所見） 本年度の活動を通して，生徒たちはより強い当事者意識を持つようになった。避難訓練後のアンケートでは，設定された避難場所の危険性に関する指摘やより効率良く避難できる経路の提案などが多く寄せられ，また様々な体験活動を通して，防災について，自分の視点に置き換えて考えることのできる生徒が増えてきた。 青嵐認定こども園，地域住民との合同避難訓練を通して，改めて地域とのつながりを確認することができ，避難所運営訓練では，避難してくる住民の安全な避難生活をどう確保すべきかを考えている様子が見られた。このような活動が有事における地域防災活動に貢献することにつながることが期待できる。 主権者教育については，機会を捉えた指導を行い，生徒の達成度が前年度を上回った。 エシカル消費については，4年生全員が調査研究に取り組み，上級学年への基盤作りを行っている。実践力をつけた生徒もいる反面，行動につながっていない生徒もおり，より実践をイメージできるような取組が求められる。 教職員の時間外勤務の縮減，業務の精選などの業務改善に取り組んでいるかのアンケート結果については，前年度からは向上しているものの，評価指標を下回っており，より一層推し進めていくことが重要である。	防災教育が非常に充実してると感じる。全県一区の中等教育学校が地域の中核として防災活動に取り組むこと，地域の子ども園や住民とともに活動することは素晴らしいことであり，今後も継続してほしい。 業務改善において，最も難しいのは意識改革である。姿勢を問うた項目において，少しずつでも改善されているのは良いことである。 学校運営協議会などを活用して大胆な業務改善を行うのも有効である。	○様々な体験活動で学んだことをどのようにして学校全体に，また地域に広めていくかが課題である。現在は，校内で防災新聞を発行し，全生徒への活動紹介や啓発を行っているが，今後もより多くの生徒が参加できる体験活動を模索し，実施する。 ○主権者教育については，公民科の授業やHR活動，学校行事を中心に，より視点を明確化するとともに，指導内容や方法を改善し，より実効力のある取組を推進する。 ○消費者意識を高める教育については，エシカル消費推進の意識を高める取組を継続することで，実践力の向上を図る。 ○教職員の業務改善への意識・姿勢の向上に向けて，個々と組織の両面で，業務の見直しや改善に向けた取組を検証し，共通理解を図っていく。
環境教育の推進	（全校レベル） 環境教育への取組を推進し，学習の場にふさわしい環境を整える。 （下位組織レベル） 清掃への積極的な取組。 ゴミの分別や節電・節水への取組。	評価指標 ○「生徒は清掃に積極的に取り組めている」と答えた生徒・教職員が85%以上。 ○「生徒はゴミの分別や節電・節水に取り組めている」と答えた生徒・教職員が80%以上。 活動計画 ①日頃からゴミの分別を推進する。 ②使用水量，使用電力の推移をグラフ化して掲示し，節水・節電への意識を高める。 ③吉野川堤防清掃活動や学校周辺の清掃活動に，年2回以上取り組む。	評価指標による達成度 ○「生徒は清掃に積極的に取り組めている」と答えた生徒82%(−1p)・教職員76%(−5p)。 ○「生徒はゴミの分別や節電・節水に取り組めている」と答えた生徒78%(±0p)・教職員78%(−3p)。 活動計画の実施状況 ①各クラスの整美委員が中心となってゴミの分別を推進し，教室や職員室，特別教室のゴミ箱で分別回収の徹底に努めた。 ②電気と水道の使用量をグラフ化してアセンブリホールに掲示し，節電・節水への意識向上に努めた。 ③吉野川堤防清掃及び，学校周辺の掃除を2回実施した。また，除草作業は3密をさけるため実施できなかった。	総合評価 （評定） **B** （所見） 清掃活動については，清掃の時間帯に音楽を流し，「音楽が流れている間は掃除をする」という意識づけが徹底され，その効果も表れてはいるものの，達成度は昨年度を下回っている。 ゴミの分別については，教室内の分別はほぼ良好であるが，長期休業中や土・日の部活動の後，ペットボトルや昼食の弁当等の処理に問題がみられた。 節水・節電について，特に，エアコンの設定温度（夏は最低25℃以上，冬は最高23℃以下）等に関するルールは，新型コロナ感染症拡大防止のため窓を開放したこともあり，柔軟に対応した。 吉野川堤防清掃等は，整美委員を中心に生徒ボランティアを募集し，実施した。	コロナ禍のために実施できなくなっていた清掃ボランティア活動等が，工夫しながら再開されつつある。今後も継続的に取り組んでいただきたい。	○4月当初に清掃の手順を生徒に丁寧に説明し，普段から生徒に清掃の意義を伝えながら，主体的に清掃活動に取り組むよう指導する。 ○ゴミの分別や節電・節水については，教職員がこまめにチェックし，その都度気付いたことを注意ししながら生徒のより一層の意識改善に向けた働きかけを行う。 ○整美委員や保健委員が発行する。「環境・保健新聞」をさらに充実させる。 ○今後の感染症拡大防止対策の状況を踏まえながら，適時適切なエアコン使用を行う。

令和4年度 総括評価表

（評定）A：十分達成できた，　B：概ね達成できた，　C：達成できなかった　徳島県立城ノ内中等教育学校(後期課程)・高等学校

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評　　価　＊（　　）は昨年度との比較で，増減ﾎﾟｲﾝﾄを表す		学校関係者の意見	
特別活動の活性化	（全校レベル） 学校行事や部活動を充実させ，学校全体を活性化する。 （下位組織レベル） 学校行事の内容の充実。 部活動の活性化。 部活動と勉強の両立。 行事での感染症対策。	評価指標 ○「学校行事は充実しており，生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 ○「部活動は活発である」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 ○「委員会活動は活発である」と答えた生徒・教職員が70%以上。 活動計画 ①学校行事は生徒が主体的に運営に携われるよう実施する。 ②部活動が活性化するよう広報やPRに努力する。 ③部活動の効率化や考査前の活動自粛など，部活動と勉強の両立体制を確立する。 ④生徒会委員会活動を活発化させる。委員会活動の計画や反省ができるような時間を設ける。 ⑤徹底した感染症対策を講じながら実施時期・形態等も工夫し，行事の実施を可能な限り推し進める。	評価指標による達成度 ○「学校行事は充実しており，生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒85%(−5p)・保護者83%(±0p)・教職員84%(+1p)。 ○「部活動は活発である」と答えた生徒85%(+1p)・保護者83%(+3p)・教職員41%(−23p)。 ○「委員会活動は活発である」と答えた生徒68%(+3p)・教職員73%(+10p)。 活動計画の実施状況 ①文化祭，体育祭，球技大会などの学校行事は，コロナ禍で昨年度に引き続き活動に制限を加えせざるを得なかったが，生徒会を中心に可能な限りの工夫や対策を行い，十分に達成感を感じられる運営ができた。 ②部活動の活動状況は生徒や保護者は活発であると8割以上が回答したが，教員の回答とは大きな開きがある。 ③考査期間中の活動を届出制とし，試合等が近い部に限り原則1時間以内という制約を設けて実施した。コロナ禍ではあったが，ほとんどの大会・コンクール等が予定通り実施され，練習時間の制約はあったものの，生徒的は概ね満足のできる活動ができたと思われる。 ④各委員は生徒会委員会活動として活動し，校内の行事，環境作り，広報活動などに役割を果たした。コロナ禍での委員会活動の内容については昨年度を踏襲し，本年度はさらに工夫を加えていた。 ⑤コロナ禍による制約はあったが、概ね予定した行事は実施することができ、感染症を誘発させることもなく無事に終えることができた。	総合評価 （評定） **B** （所見） 評価指標上の目標は，ほぼ達成できている。部活動においては生徒や保護者サイドでは活動に満足しているが，教員側から見ると活動の減少を感じているようである。生徒と教員の部活動に対する感じ方に違いがあると思われる。 学校行事においては，コロナ禍による制限はあったものの，概ね予定通り実施でき，大きな不満を残すこともなかったものと思われる。また，学校行事が感染症を誘発することなく安全に実施できたことに安堵している。 部活動と学習の両立については，睡眠時間や余暇時間を削るなど時間の確保に苦心する生徒が多いようであり，生徒の多忙感は否めない。 生徒会や委員会等の活動については，「生徒会新聞」「人権通信」「環境・保健新聞」などの発行など，昨年度からの活動を継承した。 生徒会は十分な時間をかけて，文化祭，球技大会，予餞会などの各種行事に積極的に取り組み，学校生活の活性化に大きく貢献した。また，密を避けるために行事をリモートにし，その企画から映像機器の準備をしたり，映像の作成に至るまで，生徒会役員が持ち前の優れた能力を十分に発揮し，学校行事の運営に貢献した。	部活動に関して，外部人材の活用は，有効である。 「部活動は活発である」の設問に対する生徒・保護者と教職員の意識の乖離は，本校における部活動がどうあるべきかという本質的な問題であり，「生徒のための部活動」という観点で考える必要がある。 中学校・高等学校から中等教育学校への移行期に生じる問題は様々あり，今後を冷静に見極めていく必要がある。	○次年度は感染防止対策に見直され，より制限の軽減された活動ができるものと思われる。状況を見守り，可能な限り活発な活動ができるよう計画する。 ○中等教育学校への完全移行後の各種行事の検証を行う。特に城ノ内祭については，ここ数年の経験を生かしながら，できるだけコロナ禍前の活動に戻し，生徒主体でより発展的なものを計画し実施する。それぞれの活動の状況はホームページに掲載し，保護者の理解や協力を得れるよう努める。 ○生徒会活動や委員会活動については，SHRでの呼びかけや新聞発行等をさらに充実させ，生徒が自主的に生き生きと活動に取り組める場を設ける。 ○本校の部活動のあるべき姿を見極めながら，生徒の満足度をさらに向上させるような方策を検討・実施する。
開かれた学校づくりの推進と郷土愛を育む教育の推進	（全校レベル） ホームページを充実し，学校を公開する機会をつくる。また，地域資源を生かした多様な体験・交流活動を行う。 （下位組織レベル） ホームページ等を通じた情報発信の充実。 学校公開の機会の充実。 地域に根ざした体験活動・行事の実施。 学習成果の発表，外部の人材や教育機関等との交流機会の充実。	評価指標 ○「ホームページは本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者が80%以上。 ○「学校公開の日，文化祭の公開は，本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者・教職員が80%以上。 ○「地域資源などを生かした多様な体験・交流活動行われている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 活動計画 ①ホームページの更新にすべての教員が関わり，週2回以上更新する。 ②スクールガイドを充実させる。 ③ゴルフ研修など地域資源を生かした多様な行事を実施する。	評価指標による達成度 ○「ホームページは本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者80%(±0p)。 ○「学校公開の日（参観日）は，本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者84%(+1p)・教職員78%(+2p)。感染症拡大防止のため，文化祭は公開していない。 ○「地域資源などを生かした多様な体験・交流活動が行われている」と答えた生徒59%(−1p)・保護者75%(+4p)・教職員76%(+9p)。 活動計画の実施状況 ①部活動の活動状況など，週2回以上更新している。ホームページの年間アクセス数は，2,298,784回[2月現在]。昨年の同時期が823,949回であり，2.79倍に増加している。 ②6年間の教育活動がよくわかるように内容の充実を図った。 ③今年度は4年生の新規行事として「イングリッシュツアー」を実施した。ゴルフ研修も例年通り実施した。	総合評価 （評定） **B** （所見） 今年度も昨年度に引き続き，11月に保護者対象の授業参観は実施できたものの，文化祭は非公開であった。 本校の教育活動を理解いただくために，ホームページが大きな役割を担っており，さまざまな情報を更新している。年間アクセス数は昨年度より2.79倍に増加した。 今年度は，4年生を対象に2日間，外国人留学生を招いてのイングリッシュツアーを開催し，国際理解・語学力の向上に大きな効果がもたらされた。 今後も保護者や地域の期待に応えられるよう，中等教育学校としての特色ある教育活動をあらゆる機会を通じて発信していかなければならない。	ホームページのアクセス数が大幅に増加していることと，週2回以上の更新を継続していることは素晴らしいことである。今後もこの状況が継続されるよう努めてほしい。	○各校務分掌課及び各部活動に依頼して，ホームページの記載内容を定期的に見直してもらうとともに，最新記事の掲載に努める。 ○学校公開の日，文化祭等，本校の教育活動を直接理解してもらえる行事について，可能な範囲で公開できるよう，開催方法や内容を工夫し，充実を図る。 ○ゴルフ研修等，本校独自の地域に根ざした体験的活動は，生徒にとって貴重な行事である。今後もより一層工夫を重ね，充実した活動となるよう検討しながら実施する。